

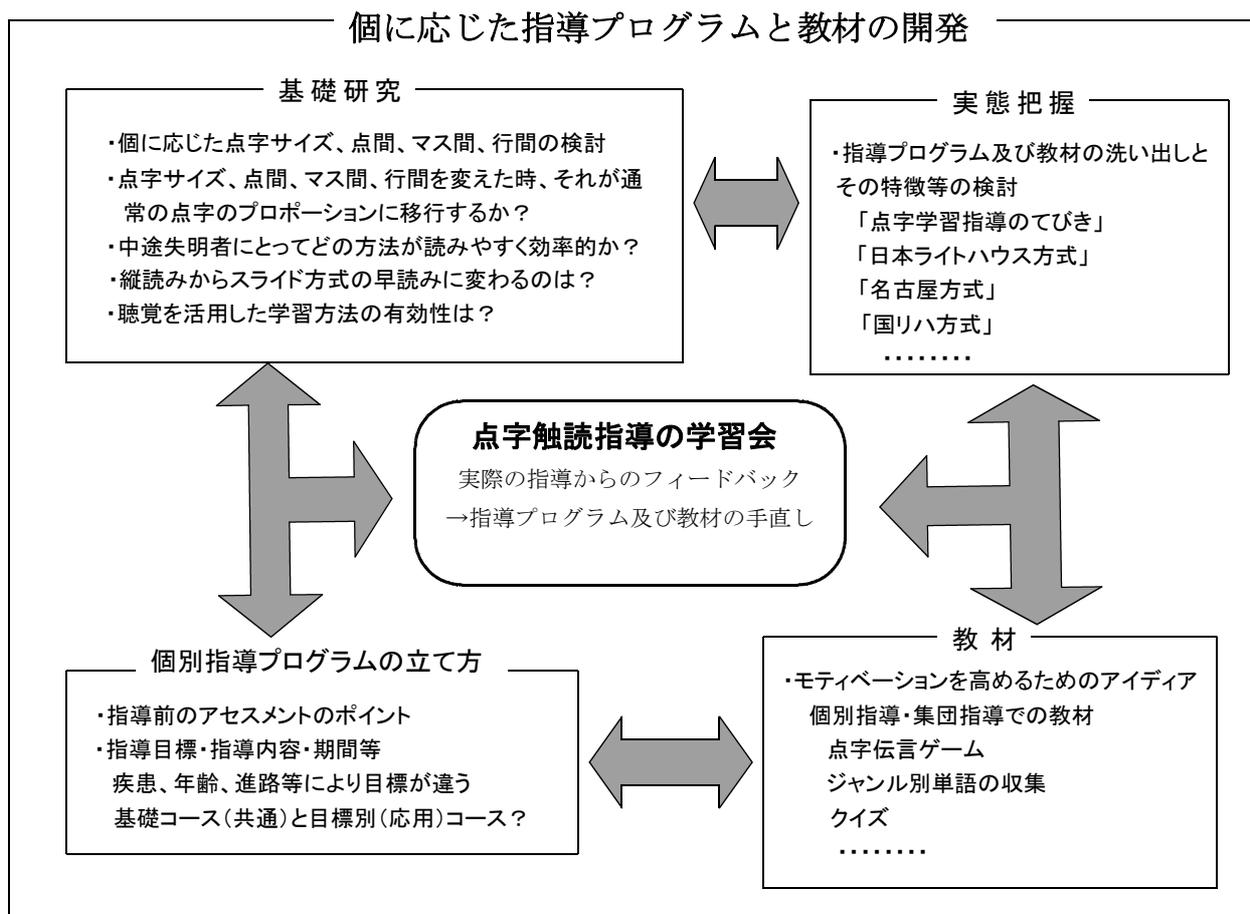
# 第 1 章 研究の概要

## I. 目的及び研究の構成

本研究は、一旦普通文字を獲得した後に視覚障害となった者\*1の点字触読能力の向上に焦点をあて、個に応じた最適点字サイズと指導プログラム及び教材の開発を目指した。この目的を遂行するにあたり、具体的な研究項目として次の3点をあげ、取り組んできた。

1. 指導プログラムと教材開発のため、盲学校やリハビリテーションセンター等で行われている中途失明者に対する点字指導法と教材の実態を把握する。
2. 点字初期指導時の個に応じた最適点字サイズの評価法を検討する。
3. 点字触読能力を高めるための個に応じた指導プログラムと教材を開発する。

本研究では、盲学校・リハビリテーションセンター・点字図書館等で実際に中途失明者の指導に携わっている人たちを対象として、「中途失明者の点字指導に関する学習会」を年1回、計3回開催してきた。この学習会においては、情報交換や演習を行いながら、点字触読能力を高めるための指導法や教材の工夫等について、実験的な試みを行ってきており、本研究の中心に位置づけているものである。研究全体の構造図を次にあげる。



## II. 研究の成果

本研究の成果として、以下の内容のものを報告する。

### 研究成果報告書（本書）

1. 「基礎研究」として進めてきた中途失明者の初期指導時の点字サイズ、マス間、行間についての研究報告。
2. 「実態把握」として、各学校・施設等から提供のあった指導法や教材について、どのような特徴があるのか等を整理したもの。また、いくつかの教材の作成者から、その教材の特徴や指導事例についての報告。
3. 学習会の報告（3回）  
ここでは、各学校・施設の「個別指導プログラムの立て方」や「教材」について、情報交換を行ってきた記録も含まれる。

### 指導者用「中途失明者の点字触読指導マニュアル及び教材（CD・フロッピー付き）」（別冊）

日本盲人社会福祉施設協議会リハビリテーション部会の協力を得て、「中途失明者の点字触読指導マニュアル」の内容や教材について、学習会等を通して検討してきた。この検討の中には、指導者が晴眼者の場合と点字使用者の場合との指導マニュアルについても話題となり、実際の学習会においては、両者に分けて実習及び検討を行ってきた。しかし、今回のまとめでは、指導者が晴眼者であることを前提としてマニュアルを作成した。そして、解説だけではなく、より分かりやすくするため、ポイントごとに指導の実際場面をビデオ収録し、CDに収め、教材のヒント集「おもしろ教材集」を作成し、この冊子に掲載した。また、これら教材の点訳電子データをフロッピーに収め、活用の便をはかった。

- \* 1 本研究においては、「一旦普通文字（墨字）を獲得した後に視覚障害となった者で、普通文字の使用が困難な者」を中途失明者と表記している。また、本報告書中に「中途視覚障害者」という用語も使用しているが、これについても同様である。